

令和5年度 学校評価表

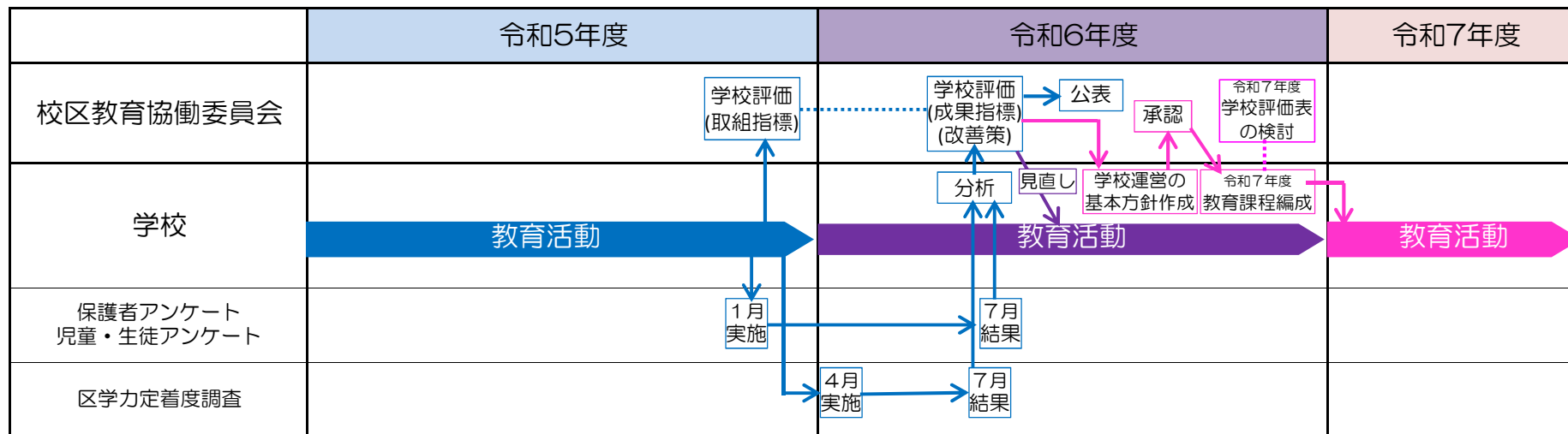
品川区立芳水小学校 校長 高木 圭一
 芳水小学校校区教育協働委員会 委員長 小泉 和博

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和4年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。
- (6) コミュニティスクールとしての取組に関すること

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和5年度の学校評価が令和6年度および令和7年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和5年度 学校評価 品川区立芳水小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		教育目標 【よく考える子】 ◆自分から学ぶ姿勢の確立 ～どのような課題でも自力解決できる意欲と学力を付け、学ぶ大切さを基本とした自学を目指す～ ○自学自習の習慣づくり ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり ○ICT機器の活用		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	品川区学力定着度調査の全学年・全教科で目標値を上回る。	国語や算数、英語は、どの学年も目標値を上回っている。	A	今後も、ねらいを明確にした授業を行うとともに、基礎的・基本的な力を身に付けられるよう、個に応じた指導を充実させていく。
	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、各教員が発達段階に応じ、工夫した授業を行う。	1学期に実施した品川区学力定着度調査の結果から授業改善プランを立て、2学期以降、授業の工夫を行った。	A	
②	品川区学力定着度調査において、理科・社会の正答率を70%とする。	4～6年生の社会の平均正答率は70%であったが、理科は63%であった。	B	児童がより興味関心をもって調べたり、実験・考察をしたりする授業を、今後も意識して行う。
	3～6年生において理科・社会での教科担任制に取り組み、指導内容の充実を図る。	理科、社会それぞれの専門性を深めたり、授業の進め方のルーティンが確立されたりして、指導内容の充実を図ることができた。	A	
③	区の調査「授業でもっとタブレットなどICT機器を活用したいと思う」の回答が90%以上とする。	アンケート結果の平均は、85.2%であった。5年生が最も高く、87.2%であった。	B	タブレット端末をありきの学習活動にならないよう、使用する目的を明確にして、効果的に使用していく。家庭と連携してSNSリテラシーを身に付けさせる必要がある。
	全教科においてタブレット端末を効果的に活用する。	教員、児童共に、タブレット端末を効果的、かつ日常的にタブレット端末の使用することができている。使い方のマナーと規制するものについて区で統一する必要がある。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和5年度 学校評価 品川区立芳水小学校

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		教育目標 【やさしい子】 ◆正しい礼儀と生活規律、豊かな情操の形成 ～豊かな人間関係を築き、礼節の重視と社会性・人間性を基盤とした自律を目指す～ ○市民科学習の充実＜自己管理領域・人間関係形成領域の重点化＞		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童・生徒アンケート(R6.1実施)において、肯定的な自己評価が70%以上となる。	係や役割を果たしていると回答した児童の平均は82.1%であった。	A	・学級・学年・学校をよりよくしていこうという思いをもっている児童が多い。今後も、児童が主体的に学校をよくしていこうという仕掛けを行っていく。
	毎学期に各学年の発達段階に応じた自己管理に関する単元を実施する。	1学期に市民科で判断力・責任力を養い、計画的に生活を行うための授業を行い、キャリア・パスポートで自己評価を行った。	A	
②	児童は、生活の約束を守り、友達と折り合いを付けながら楽しく生活している。	生活の約束を守り、友達と楽しく生活している、という点においては、おおむね問題のない状況である。友達と意見の相違があった場合にお互い譲れずトラブルになることがある。	B	・来年度、自分や自分の所属する集団を自らよりよいものにしていこうとする意識を意図的・計画的に醸成するため、全学年で市民科「自治的活動領域」「文化創造領域」の学習の充実を図る。
	毎学期に人間関係形成に関する単元を実施し、各学期および行事を関連させながら年間通じて自己評価を行う。	学期ごとに市民科で、自他理解・コミュニケーション力・奉仕精神の関する授業や行事を行って、振り返りで自己評価を行った。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		教育目標 【元気な子】 ◆強い心と体の育成 ～自信をもち、常に努力するたくましさをもつ精神的・身体的な強さを基盤とした自立を目指す～ ○魅力ある体育学習による意欲の高揚と日常的な運動習慣の確立 ○心の健康 自己肯定感の高揚		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	自ら積極的に運動している。	どの学年も、積極的に運動している児童がほとんどであった。	A	・年々児童数が増加しており、全学年が一斉に校庭や体育館を使うことが困難になっていくので、工夫が必要となる。
	月1回のロング(30分)中休み・昼休みを設定し、体を動かす時間を十分確保する。	ロング中休みや昼休みを設けたことで、児童が十分に体を動かす時間が確保された。	A	
②	年2回の長縄記録会では、全学級が1回目の記録を上回る。	22学級中、12学級が、1回目の記録を上回った。	B	・「ソフトボール投げ」「握力」では、全ての学年(男女別)で平均を下回った。このことから、体育の時間や家庭に周知し、意図的に取り組む必要がある。本校は、ボルダリングが設置されているので、休み時間等でさらに有効に活用し、握力や腕力の向上を図っていく。
	体力テストの結果において、半分以上の種目で全国平均を平均を上回る。	全8種目、6学年(男女別)96項目中、平均を上回った項目は54項目であった。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		【芳水小学校いじめ防止基本方針】 いじめは、どの学級でもどの子どもにも起こり得ることから、誰もが安心して学校生活を送れるように、全教職員が共通理解を図り、同一歩調のもと、いじめのない学級づくりにとりくんでいく。 また、学校と地域、家庭、その他の関係機関との連携も積極的に行っていく。 ○いじめを許容しない集団づくり ○人権教育の充実		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	いじめは人権侵害行為であり、決してしてはいけなと共に、大人は決して許さないという認識をもつ。	ふれあい月間において、いじめ防止に関する授業を実施し、いじめが人権侵害であり決して許される行為ではないことを指導した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめは、どこでも起こり得るという認識をもって、今後も取り組んでいく。 ・児童間のトラブルがあった際は、速やかに複数で事実確認を行い、解決を図る。
	毎学期いじめを許容しない集団づくりに向けた市民科授業を実施する。	各学級市民科において、計画的または、必要時にいじめを許容しない授業を実施し、自分事として捉えて振り返らせることを行った。	B	
②	児童が自ら、友達関係の悩み事を、早期に大人に相談することができる。	相談の仕方や、様々な窓口等があることを、各学級で伝えることができた。しかし、児童間の問題が起こってから教員に情報が上がってくることもある。	B	今後も、児童がSOSのサインを出しやすいような人間関係を構築したり、大人が小さな変化にも気付いたりできるように心掛ける。
	区実施、学期1回の生活アンケートの結果から、該当児童と面談を行い、解決にあたる。	アンケート結果に基づいて、面談を行い、学年、専科教員で連携して対応した。	B	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		【品川コミュニティ・スクールの進化】 地域に支えられた地域の顔となり、地域と融合する新しいコミュニティづくりに寄与する特色ある学校を目指す。 【英語教育推進校としての充実】 リタラシー指導を含めた品川区独自の英語科のカリキュラムの確実な実施により、力量維持を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	今年度から行われる、品川コミュニティ・スクールDAYを校区教育協働委員会と学校が連携しながら、計画・実施をする。	代表委員会を中心に、SDGsの取組について発表した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から区の施策となった「品川コミュニティ・スクールDAY」では、これまで本校が取り組んできたSDGsを関連させた。来年度、さらに児童が主体的に活動できるような内容を検討していく。 ・森林環境学習は昨年度から入念に計画していたので、充実した行事になった。 ・地域のお祭りに、児童・教職員・父親倶楽部・PTAが一丸となって、楽しく参加できたことは大きな成果であり、今後も無理のない範囲で継続していく。
	校区教育協働委員会発信の環境学習を行い、来年度以降の行事として確立する。	6月に第4学年が青梅市で環境学習を行った。地域の方や学校ボランティアも多数参加し環境に対する意識を高められた行事となった。	A	
	居木神社と連携し、本校と関連のある盆踊りを教わりお祭り等で披露する。	第3学年が盆踊りを教わり披露した。また、例大祭において金管クラブや、教職員が演奏を行った。また、子ども御輿では父親倶楽部の働きかけで多くの児童が参加した。	A	
②	品川区学力調査の6年英語科において目標値を超える。	どの学年も、全ての項目で目標値を上回っている。	A	質の高いJTEの授業の成果がしっかりと表れている。11月に行われた英語学習成果発表会では、1～4年でJoint Storytellingを披露した。本校の特色、英語推進校として来年度以降も英語教育を充実させていく。
	品川区の英語教育について校内研修を年間3回実施する。	青山学院大学アレン教授を講師として、英語の授業と学級経営との深い関わりを学び、Joint Storytelling中心とした研究授業の3回目を2月に行う予定である。	A	
	英語成果発表会を実施する。	11月の英語学習成果発表会を行い、1～4年は体育館でJoint Storytellingを披露した。5、6年は教室で、これまでの英語学習の成果を発表した。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成